

令和3年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市立今井小学校

この文化財ニュースでは、今まで市立友田小学校まで紹介してきました。これからご紹介する市立今井小学校は、前回の友田小学校と同じような歴史を持つ学校です。

今井地区は江戸時代から今井村として存在していましたが、明治22(1889)年の町村制の施行により、霞村の一部になりました。そのような歴史から、学制が發布されてすぐの明治5(1872)年8月25日には今井村だけの学校が作られました。その後、霞村ができた関係で、現在の第三小学校の分校という形で100年近く存続しました。そして廃校後、新規に「青梅市立今井小学校」として独立した学校として作られた学校なのです。

その辺のところをもう少し詳しく見てみましょう。

明治5年8月2日(旧暦)、「一般の人民邑ニ不学ノ戸無ク、家ニ不学ノ人無カラシメン事ヲ期ス、…」という「学制」が發布されました。この時点では「今井村」でしたので、村にある真言宗の寺院月光山「眞福寺」(その後廃寺、現在墓地だけ残っている)を借用して「今井神随学舎」を立ち上げます。旧霞地区は他の地区より村の数が多かったため、谷野に「正梯学舎」、師岡に「蒲廬学舎」、藤橋に「神教学舎」、塩船に「耕文学舎」、新町に「明倫学者」の6つの学校ができました。どこにできたか不明の学校もありますが、ほとんどがお寺を間借りしてできた学校です。今井村にできた「今井神随学舎」は、その後、明治8(1875)年「今井学校」と名称を変えます。そして明治16(1883)年には、藤橋村と共同で「和睦学校」を設立します。明治22年「町村制」が發布され根ヶ布村・上下師岡村・吹上村・野上村・大門村・塩船村・谷野村・木野下村・今寺村・藤橋村・今井村・新町村の13ヶ村が合併して霞村ができると、これらの学校が順次統廃合されていきます。

明治39(1906)年、今の市立第三小学校の場所に「霞村立霞尋常高等小学校」ができると、大門から遠い根ヶ布(師岡)や今井・新町は名称は変わりますが、大門にある霞尋常高等小学校の分教場(師岡分教場・今井分教場)として存続していきます。そして、「霞尋常高等小学校今井分教場」として今の今井市民センターの所に昭和43(1968)年の廃校まで(途中から分校の名称になる)存続していきます。

昭和26(1951)年、旧青梅町・調布村・霞村が合併し、青梅市が誕生すると、霞尋常高等小学校は青梅市立霞小学校と名称を変えます(第3小学校となるのは2年後の昭和28(1953)年。その今井分校として1～3年生までの子がここで勉強し、4年生からは

本校である市立第三小学校に通うようになりました。その当時の今井地区は、「根通り」と言って谷野・木野下から続く山の根の通りと霞川の段丘上のバス通り（町屋街道）の両側に人家がある状態で、どちらかといえば霞川に沿った細長い学区で大門にある第三小学校まではかなりの距離がありました。私は第三小学校の卒業ですが、金子橋のところに同級生がいて、そこから毎日通学してくるのはさぞ大変だったろうと思いました。

そして、昭和 40（1965）年から、市立第三小学校の校舎改築工事が始まります。今までの木造 2 階建ての校舎から、大勢の児童を収容できる 3 階建ての鉄筋の防音校舎への改築です。3 期にわたって実施された改築工事（校舎・体育館全ての工事）も昭和 47（1972）年に完成し、落成記念式典が行われました。この第三小学校の校舎改築に合わせるように周辺地域も区画整理事業が行われ、人口がどんどん増加していきました。

昭和 43 年、第三小学校の第 1 期工事が終わると同時に、100 年近く続いた神髓学舎の流れをくむ今井分校は閉鎖となりました。その後、昭和 53（1978）年 4 月に新規の今井小学校が開校するまでの 10 年間は、大門にある本校まで子供たちは通学したのですが、距離がありました。そこで 1～3 年生はバス通学で 4 年生以上は徒歩通学になりました。高学年になると歩いて行かねばならず、かなりの通学時間を要したわけです。

今井地区でも田んぼに替わって家が建ち、人口が増加していきました。青梅市では、霞川の改修工事と合わせて、浮島神社南側の 20,831 m²の敷地を買収し、鉄筋コンクリート 3 階建ての現校舎を建設しました。今井小学校西側の岩蔵街道を挟んだ西側は天皇塚田んぼといわれる穀倉地帯ですが、今井小学校から東側もほとんど田んぼという景色でしたので、その中に鉄筋コンクリートの 3 階建ての校舎は目立つ建物だったのではないかと思います。そして、昭和 53 年 4 月 1 日、初代校長に岡野正一先生を迎え児童数 541 名 16 学級（1 年生～5 年生で 6 年生は無し）で、新生今井小学校が開校しました。

第 3 小学校から独立した今井小学校でしたが、すぐに児童数が増えていきます。そして、昭和 57（1982）年には新設学校（後の藤橋小学校）の開設準備委員会が校内に立ち上げられました。そして、昭和 58（1983）年 4 月 1 日に学区変更をして市立藤橋小学校が開校しました。第 3 小学校より分かれ独立した今井小学校でしたが、すぐに新たな学校を創設するまでに児童が急増したわけです。これを見ても青梅市の東部地域の発展のうかがい知ることができます。

今年は令和になって早くも 3 年目ですが、昨年より全世界を恐怖に陥れている新型コロナウイルスに負けないよう、この 4 月 1 日に新たに着任した第 13 代神尾健彦校長先生を中心として、知恵を出し合って新型コロナウイルスの蔓延防止に努めながら、教職員一丸となって創立 50 周年に向けて頑張っているとの事です。

参考文献：青梅市史、青梅教育史、今井小学校創立 20 周年記念誌、同 30 周年記念誌

（文責 神森 正）